

## 間伐材を活用したオリジナルステーショナリーのJOMOステーションへの配付について

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:松下功夫)は、このたび、社員らによる森林整備作業で産出された間伐材を活用したオリジナルステーショナリー(文房具)を製作し、本年6月から一部のJOMOステーション(約2,000店舗)に配付することいたしました。
2. 活用する間伐材は、「高梁・JOMO ふれあいの森」(所在地:岡山県高梁市)のもので、当社は、2006年度から特定非営利活動法人ふれあいの里・高梁(所在地:岡山県高梁市浜町、理事長:小宮山 節夫)と協働で、年3回程度、そこで森林整備を行っております。
3. 当社は、今後、間伐材を活用したオリジナルのステーショナリーを「JOMO ふれあいの森シリーズ」として年4回程度製作し、JOMOステーションに配付してまいります。6月に配付する第一弾はペンシルトレイで、JOMOステーション内のカウンターやテーブル等に設置し、お客様等にご利用いただく予定です。
4. 本施策は、間伐材を有効活用することで、地球温暖化防止につながる森林整備に貢献することや、森林整備の大切さをJOMOステーションのお客様にもご理解いただくことを目的としております。
5. 当社は、二酸化炭素の吸収源となる森林の健全な育成を図るため、岡山県のほか長野県や新潟県においても社員のボランティア等による森林整備活動を行うとともに、間伐材活用に関する「木づかい運動」にも取り組んでいます。長野県における森林整備活動により産出された間伐材につきましては、印刷用紙への国産間伐材の利用を促す仕組み「3.9ペーパー」により、当社が発行するCSRレポートや「童話の花束」(注)などの印刷物に活用されております。

(注)「童話の花束」

当社が、毎年「心のふれあい」をテーマに一般の方からオリジナルの創作童話を募集し、優秀作品を選出のうえ、童話集として発行している冊子のこと。

以上

### ● 【参考資料】“JOMO ふれあいの森シリーズ”第一弾の「ペンシルトレイ」

